

(様式6-2)

研究成果概要

所属学校名 伊賀市立柘植小学校

職・名前 教諭 澤村 悟

- 1 事業の名称 一般内地留学（人権教育に関するもの）
- 2 留学先の名称 大阪教育大学
- 3 研究主題 『全ての人にとって実りある人権教育の在り方を探る』
～押しつけられ感、疎外感、無関心からの脱却をめざす教育内容の創造～

4 研究成果の概要

14年間の教師生活を送る中で、たくさん子どもたちに出会ってきた。悔やみきれない失敗もあった。内地留学を通じて、教師という立場から人権教育を実践しようとするうちに、いつの間にか「私」を置き去りにしてきたことに気づいた。これまで重ねてきた失敗の原因は、自分の内にある人権教育に対する矛盾や違和感を整理しきれないまま子どもに向かい続けてきたことにあるのだ。そこで、教師や子どもという立場をこえ、あらゆる立場の人が矛盾や違和感、葛藤を引き受けながら自分事として学び続けられる人権教育の在り方を探ってみたいと研究主題を設定した。

序章では、私自身の生い立ちや人権・同和教育との出会いをふり返りながら、押し込めてきた矛盾や違和感、葛藤を洗い出し、課題意識を整理した。ここでは、単なる心がけ主義の人権教育ではなく、学習者一人ひとりの「内的葛藤」を大切にしながら人権教育を進めていくことが課題解決につながるということが浮かび上がっている。

第1章では、「内的葛藤」を大切にしながら、全ての人にとって実りある人権教育の構築を目指すため、森教授作成の「人権教育の三類型（説教型・生い立ち共感型・冒険心型）」を参考に、私のこれまでの実践を捉え直すとともに、これからの人権教育に必要な視点を探った。

第2章では、松原市立布忍小学校、箕面市立萱野小学校での現地研究を、私の課題意識に沿ってまとめた。布忍小学校では、「見つめる・語る・つながる」のサイクルが教師集団と子ども集団の双方に生まれるシステムを学んだ。萱野小学校では、しんどい子どもを取り巻く状況にこだわりながら、よりよく社会に参加する力を養う「人権総合学習」の在り方を学んだ。また、どちらの学校も、「持続可能なチームビルディング」の構築によって、同和教育が大事にしてきた視点を受け継ぎながら、新しい実践を生み出していることが印象的であった。

第3章では、「全ての人にとって実りある人権教育」を構想するために、「多様性教育」を取り上げ、その考え方や編成原理、実際に自分自身が体験して感じたことをまとめた。